

最後には統一大成律であります。思想を裁いて行く上にも、吾々の文化を進めて行く上にも、國家が存在して居る所の根本の目的を明かにするのにも、實は國家でも人生でも何が究極の目的かといへば、精神生活を完成するより外ないのであります。食ふことにまごつくナンといふのは、文明が低いからであります。食ふ位の事は方法に依つてどうにでもなるので、所謂生産の配給といふやうなことはそれ程難かしい事ではありませぬ、それが今日うまく行かぬのは嘘を吐くからである、有り餘る土地があつてもその土地を耕す人間を放逐せんとしたり、食ふ物があるが上にも餘計の者を食はうとしたり、贅澤の事をしたりするからである、石炭ならば石炭を程よく分配すれば宜いのには、一方では要りもせぬストーヴにドン／＼焚いて居るから、一方が足らなくなる、人間が私の心を去つてさへ行けば問題は容易に解決する。物質の調節ぐらゐに永久にまごつくやうな事では駄目でありませぬか。ぢやが薯の數を算へる位の事は誰でも分る話である、精神の文化を大成する所に人間の面白味があるのである。國家の

存在もやはりその意味であつて、國民の幸福といふ事を食はしさいすれば宜いといふのでは、餘程低い話である。諸君考へて見たまへ！ 諸君が子供を産んで、唯だ食はしませずれば何も心配ない、お前が死ぬまで毎日米五合とぢやが薯十きれ宛ちやんと食へるやうに俺がしてやるから、それで親の義務は済んだ、あとはモウ學問も要らんければ何も要らぬ、唯だ腹がへつたらこれを食つて居れ……といふやうにやつて置くかそうしてどちらが宜いかといへば、今日のやうに物質のみに走つてはいかぬ、少々ぐらゐ不味い物を食つても精神の生活に活きなければならぬ、幾ら貧しい生活にしてもそこに心の楽しみがあり、心の希望がありさへすれば、光と力がある。唯物質にのみ榮えてそこに墮落の生活をなし、道徳もなければ何も無い、「グツ／＼言ふナ、五十錢やるから」といふ位の事で萬事を済まさうといふのは、如何にも低劣である。それ故にこの文明を大成して行くと云ふは實は思想の問題であり、精神文明のことである、